記　載　例（３の１）

NO.

（様式　２）

履　歴　書

年　　月　　日現在

（ふりがな） 氏　　名	○○○　○○○○ ○○　○○　　印	生年月日 （西暦）	○○年○月○○日生（△歳） （旧姓　　）
現　　職	◎◎大学　□□学部　講師 押印をお願いします。	連絡先	〒000-0000 ▲▲市○○町□丁目◆番 電話（000）0000-0000 ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　0000@0000.ac.jp
現 住 所	〒000-0000 ■■市◇◇町△丁目×番地　　電話（000）-0000-0000		
学　　歴 （西暦）	○年○月　■■高等学校卒業 ○年○月　△△大学□□学部　　入学 ○年○月　　同　　卒業 ○年○月　△△大学大学院□□研究科　　入学 ○年○月　　同　　修了		
学位（西暦）	○年　○月　　××博士　　（　△△大学 第○○号）		
免許・資格 （西暦）	○年○月　○○○○学会　（第○○○号）		
職歴・研究歴 （西暦）	○年○月　△△大学　研究員　　勤務 ○年○月　××大学　◆◆教室　特別研究生　　入学 ○年○月　△△大学　研究員　　退職 ○年○月　◇◇大学　□□学部　助教　　勤務 ○年○月　××大学　◆◆教室　特別研究生　　退学 ○年○月　◇◇大学　□□学部　助教　　退職 ○年○月　◎◎大学　□□学部　講師　　勤務 現在に至る		
賞　　罰	○年○月　　××学会　◎◎賞受賞		

本書類の記載内容については事実に相違なく、虚偽の申請があった場合には、採用取消や懲戒処分等の対象となり得ることについて了承します。

令和　　年　　月　　日

氏名

※賞罰・処分歴等欄には、過去に学生に対するセクシャルハラスメントを含む性暴力等を原因として懲戒処分若しくは分限処分を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入すること。

和歌山県立医科大学医学部

記　載　例（３の２）

著　　書

番　号	（単著）著者、書名、総頁、発行所、発行地、発行年 （共著・分担執筆）著者名、分担題目、書名、編者名、初頁～終頁、発行所、発行地、発行年

（英文）

（分担執筆）

1　Herman R, Freedman W, Monster AW and Hanaoka T＊: A systematic analysis of myotatic reflex activity in human spastic muscle. In “New Development in Electromyography and Clinical Neurophysiology”(Ed.) Desmedt JE, pp 556-578, S Karger, Brussels, 1994

（和文）

（単著）

2　　華岡太郎＊:「卵巣の内分泌学」　総 406 頁、診断と治療社、東京、1995

原　　著

（審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録などは含めない。）

番　号	著者名、題名、誌名、巻、初頁～終頁、年、ＩＦ、ＣＩ

（英文）

1　Wakaura H and Hanaoka T＊: Sensory response of cortical neurons in the anterior ectosylvian sulcus, including the area evoking eye movement. Brain Research 575: 181-186, 1996 IF＝2.389　CI＝21

（和文）

2　華岡太郎、和歌浦花子＊：糖尿病患者の色覚異常について．糖尿病　33: 675-680, 1993

3　華岡太郎、南方熊夫、雑賀孫二＊：糖尿病性神経障害について．糖尿病　35: 837-842, 1995

総　　説

番　号	著者名、題名、誌名、巻、初頁～終頁、年、ＩＦ、ＣＩ

（英文）

1　Hanaoka T＊, Wakayama H and Minakata K: Neurogenic control of cerebral circulation. Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism 29: 1655-1667, 2009　IF=5.673　CI=96

（和文）

2　華岡太郎＊：痛みの分子生物学ーペプチド発現と細胞性癌遺伝子．ペインクリニック 12: 17-24, 1990

3　和歌浦花子＊、華岡太郎：動脈硬化巣におけるコラーゲンおよび関連酵素の分布．動脈硬化　19: 601-604, 1991

記　載　例（３の３）

症　例　報　告

番　号	著者名、題名、誌名、巻、初頁～終頁、年、ＩＦ、ＣＩ
1	華岡太郎、南方熊夫、雑賀孫二＊：聴性脳幹反応潜時の遅延を認めSIADHを合併した糖尿病性神経障害の一例.糖尿病　35：837-842,1995

学　会　発　表

（国際学会、国内学会に分けて記載する。国内学会は特別講演、シンポジウム、ワークショップのみ。国際学会は一般演題を含む。）

番　号	発表者名、演題名、学会名、場所、年
	（国際学会）
	＊シンポジウム
1	Hanaoka T, Saika M and Minakata K: Expression and regulation of neuropeptides in rat facial motoneurons. VⅡ International Symposium on Facial Nerve, Cologne, Germany, 1992
	＊一般演題
2	Hanaoka T, Saika M and Minakata K: Halothane constricts mesenteric artery transiently by releasing Ca++ from the sarcoplasmic reticulum. Annual Meeting of American Society of Anesthesiology, New Orleans, USA, 1992
	（国内学会）
	＊シンポジウム
3	華岡太郎：Dynorphin(1-13)のモルヒネ鎮痛と耐性形成におよぼす影響、第６回鎮痛薬オピオイドペプチドシンポジウム、長崎, 1996

加入学会および社会における活動

（主な学会名、役職名および学術雑誌の編集委員等を記入する。併せて、加入・活動期間等も記入する。）

（加入学会）

○日本××学会（2005年４月～現在）
　評議員（2012年４月～現在）

○和歌山▲▲学会（2006年１月～2008年12月）
　事務局責任者（2007年４月～2008年12月）

○近畿■■学会（2010年４月～現在）

（学術雑誌の編集委員等）

○Deputy Editor
　Brain Res.　（2011年４月～2013年３月）

（その他社会における活動）

○日本学術振興会◇◇委員会専門員（2009年12月～2010年11月）